

wish

前橋市手をつなぐ育成会報

●●●ウィッシュ

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>メールアドレス info@m-teotunagu.moo.jp

携帯TEL 080-7744-4300



発行所

前橋市手をつなぐ育成会

前橋市東上野町459-1

前橋市立前橋特別支援学校内

TEL027-260-3001

発行人 塩崎 政江

印刷所 マルエー印刷

TEL 027-232-1684



コロナに負けるな!! 分散型ゆうあいハイキング



「今年は、みんなで集まることはできないよね」

「だけど、家の中にいるとストレスがたまっちゃう」

こんな話題が出る中、コロナ感染対策をしっかりとした上で、活動できる行事を実施できないだろうかと考え、人数を限定して何回かに分けた形の「ゆうあいハイキング」を計画しました。

これまでは1回で実施した事業を4回に分散しました。それぞれのご家族の第1希望を重視しながら、各回にできるだけ色々な方に参加してもらえよう、募集の仕方を工夫しました。

第1回ゆうあいハイキング

日時：11月1日(日)

場所：国立赤城青少年交流の家

内容：木の実を使って飾りや遊ぶ物を作ろう!

参加者：6家族13名 スタッフ6名

合計19名

秋晴れのすがすがしい交流の家で、色づいた木々をながめながら多目的フィールドまで散歩。センター棟で、1テーブルに1家族が座ってクラフト制作を楽しみました。

リースに松ぼっくりやドングリ、椿の実などをホットボンドでくっつけた飾り作り。初めはどきどきしていたのにみんなの様子を見ているうちに夢中になってホットボ



ンドでくっつけていた人。リボンをぐるぐるまいて色鮮やかなリースに仕上げた人。「ついつい親の方が夢中になっちゃった」と言いながらいくつもの飾りを作った人。

紙コップに紐をつけた「松ぼっくりけん玉」、ドングリに楊枝をさした「ドングリごま」などを作って遊ぶ。松ぼっくりがコップに入ると「やったー」と大喜びの人。木の実の感触が気に入ってずっと握っていた人。ドングリごまにイラストを描いていた人。

昼食を挟んで午後までゆっくり制作を楽しみました。講師の先生がたくさんの木の実を見つけてきてくれたり、いろんな道具を準備してくれたりしたので、豊かな環境でクラフトを楽しめました。

「家に持って帰るとすぐに玄関に飾りました。」「クリスマスが終わったら正月飾りに変身できると聞いたので、ながーく楽しみたいと思います。」「何よりも、久しぶりに外に出て人と会えたのが嬉しかったようでした。」など、参加者から喜びの声が聞こえました。



第2回ゆうあいハイキング

日時：11月15日(日)

場所：国立赤城青少年交流の家・レオナルド・ダ・ビンチ牧場

内容：ウォークラリー「グリーンアドベンチャー」、乗馬体験

参加者：6家族15名 スタッフ4名

合計19名

この日も秋晴れで暖かく、紅葉真っ盛りの交流の家の周辺を、木の名前を見つけながら家族ごとに歩きました。途中で道を間違えた家族もありましたが、1番から13番まで歩くことができました。

「あの坂道をよく頑張ったね、おかげでおなかが空いたよ。」「暖かくて紅葉がきれいで、とても気持ちよかった。」など、体を動かす楽しさを感じたよう



でした。特に小学生や高校生はとても元気にがんばりました。みんなに声をかけられて嬉しそうでした。

午後は、それぞれの車で移動し、乗馬体験。

レオナルド・ダ・ビンチ牧場は障害のある方の働く場所として、社会福祉法人巢立ちの杜が運営している牧場です。牧場で働く障害のある方々は、普段は厩舎清掃や給餌、ブラッシングなどをしてしていますが、こうした引馬乗馬の際には、馬の両サイドで、乗馬のサポート役なども務めています。この日も騎乗するまでの誘導や、騎乗中の安全確認などを丁寧に行なってくださいました。

サラブレッドのような大きな馬に乗るのは初めてという方も多く、最初は近づくことも少し恐々でしたが、牧場のスタッフの方にサポートされながら何とか騎乗すると、自然にスッと背筋が伸び、馬場を2周する間には、周りに手を振る余裕も出てきて、笑顔があふれていました。

皆さん乗り終えたあとは、お世話になったお馬さんへの愛着も一気にわいてきたようで、最後はお馬さんとのお別れが寂しそうでした。



第3回ゆうあいハイキング

日時：11月22日（日）

場所：国立赤城青少年交流の家・キミちゃんりんご園

内容：ウォークラリー「グリーンアドベンチャー」・りんご狩り

参加者：8家族18名 スタッフ5名
合計23名

お天気が見方をしてくれて、この日も穏やかな晴天。昨日まで風が吹いていたのに、今日は風もなく小春日和で、参加者の気持ちも温めてくれました。

午前中は交流の家の周辺の山道を逆コースで歩きました。長い急な下り坂があるので、その前で2コースに別れ、最後は新しくできた「ササビー広場」に集合。小さなお子さん向けのアスレチックもあり、力が残っている人はそこにも挑戦。

午後は、移動してリンゴ園へ。ちょうど旬をむかえた「ふじ」を食べたりもぎ取ったりしました。おいしいりんごをお土産に帰途につきました。

「意外にも急な下り坂に挑戦すると張り切っていて、すごいなあと思ったよ。」「初めて参加したけれど、他の皆さんと会えてよかった。」「りんごは大好きなので嬉しい。」など、喜びの声がたくさん聞こえました。



第4回ゆうあいハイキング

日時：12月13日（日）

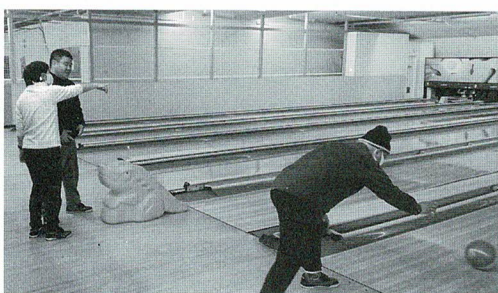
場所：エメラルドボウル

内容：ボウリング大会

参加者：6家族12名 スタッフ3名
合計15名

最後はボウリング大会です。ボウリングの好きな方が集まりました。

感染予防のため1レーンに1組の親子がエントリーするスタイルでチャレンジし、6レーンに分かれて試合開始。ストライク・スペアに拍手したり、ガターにがっかりしたり。でもみんなで楽しむことができました。豪華景品にも目がキラキラ。



参加者の声

始球式が出来て緊張したけど嬉しかったです。楽しくできました。（久保田 優子）

親子揃って楽しく出来て良かった。（T）

毎年楽しく参加させていただいています。感染に気を付けて楽しく参加できる機会があり嬉しく思います。こんな企画がまたあると嬉しいです。（山崎 雅子）



4回の活動を終えて



現地集合が難しいご家庭もあったでしょうし、回数が増えて事務局が大変だったこともありましたが、やってみると、予想以上の効果がありました。

- 人数が少ない分、顔見知りになれたり言葉を交わしたりできたこと。
- 本人の好きな内容を選択できたこと。
- ご家族の都合のよい日を選べたこと。



コロナ禍で学校が休校になったり事業所が休みになったりして、ストレスがたまっていた方も多かったようです。外に出て嬉しそうなお子さんの姿を見て、親の方が嬉しくなったとの声もたくさんありました。親がほっとすると、それが子供にも伝わります。親子で社会に出られた貴重な機会だと感じました。

その他の活動

「おしゃべり交流会」の再開



12月8日に9か月ぶりのリアル版「おしゃべり交流会」（実際に会場で集まるスタイル）を再開しました。一度の人数は10名程度に制限しましたが、Zoomを利用して、ご自宅からの参加も可能としました。本格的な再開まではまだ時間がかかりそうですが、少しずつでも皆さんとつながっていることが実感できる活動として続けていければと願っています。（1月より、またリアル版はしばらくお休みになりました。オンライン版のみでの実施を企画中です。）

また、グループLINEを利用した「おしゃべり交流会」も行っています。本会会員であればどなたでも気軽に参加できますので、参加希望の方は、info@m-teotunagu.moo.jpまで、氏名・所属、および「グループLINEへの参加希望」と明記してお問い合わせください。



群馬県ヘルプマークの交付



外見からわかりにくくても、様々な障害等により援助や配慮を必要としている方が、そのことを周囲の方に知らせるためのマークです。



群馬県手をつなぐ育成会が交付窓口に追加されることになりましたので、前橋市手をつなぐ育成会としても、希望される会員にはお渡しできるよう準備しました。ご希望の方は事務局までご連絡いただければ送付いたします。（080-7744-4300）



手をつなぐ育成会を知って

前橋市PTA連合会顧問 吉澤 守和

私は、前橋市PTA連合会で数年間PTA活動をさせてもらっています。

特別支援学校の保護者も市P連の会員であり、自校においてさかんにPTA活動を行っていることは存じておりました。しかし、なかなか特別支援学校の保護者の方々と直接接する機会が少なく、以前より意見交換や情報交換のきっかけを作りたいと思っていました。

そんな中、PTAの会長会議で「手をつなぐ育成会」の紹介を聞き、特別支援教育対象の子供たちの為に活動している団体があるという事を知りました。

そして、是非この活動を応援したいと思い、他のPTAの方々や知人に声をかけ、「手をつなぐ育成会」に入会させていただきました。

私は、これをきっかけに、特別な支援が必要なお子さんの保護者の方々とも交流を持ち、情報交換や意見交換ができれば、更にコミュニケーションの場を広げられ、楽しく活動ができるのではないかと考えています。

綿先生の講演『親なき後に向けて、家族がすべき準備や心構えとは』についての感想

社会福祉法人あかぎの響 小淵 寛
ヘルパーステーションつゆくさ

今回、群馬県手をつなぐ育成会主催の綿先生の講演を初めて拝聴する機会をいただきました。当初は漠然とした期待と希望を胸に、ワクワクとした気持ちで会場へと足を運びましたが、講演を聴き終えた結果、現実はその気持ちとは全く違い、大きな衝撃を受ける事となってしまいました。

綿先生のお話を聴いて「人が人を支援する・援助をする」ということの難しさと、一つ一つの現場に携わる責任の重みを改めて見つめ直さなければいけないと思う事が出来、自分にとって、とても貴重な機会となりました。中でも「障がいのある子どもの親は、自分の子どもの死に方をも考えなければいけない。」この先生の言葉からは、本当に当事者にしかわかりえないのだという重みを肌で感じ、正直、障がいのある方やそのご家族と本当に自分は向き合っていけるのかと不安な気持ちになりました。

これから先、自分自身にどれだけの事が出来るのかはわかりませんが、「親なきあと」障がい者がどのように生きて行くのかという道筋を、いち支援者として具体的に意識をする事が出来ました。そして、その方に親なきあとも「第三者のプロ」・「重要な他者」として信頼をしていただき、関わりを絶たれてしまうことがないように、これから先も自分が勉強し、成長していかななくてはならないと今回の講演を拝聴して心に刻む事が出来ました。

最後に、今回綿先生の講演を通して、障がい者のご家族の皆様と同じ目線で時間を過ごす事が出来、本当に貴重な経験となりました。またこのような機会がありましたら是非、皆様と同じ時間を過ごさせていただけたらと思います。

令和 2 年 12 月 21 日

講師紹介

綿 祐二先生

1964年愛知県生まれ。日本福祉大学などで教鞭をとられると共に、社会福祉法人の運営に携わるなど、障害福祉の専門家として活躍しています。

このたび令和3年1月1日より、事務局作業拠点を今までお借りしていた散歩の駅から下記住所に移転しました。

〒371-0114 前橋市富士見町田島253番地2

今年度の会員数	普通会員		賛助会員	合計人数
	本人	家族		
個人	9	17	20	46
学校	75	38	345	423
施設	188	116	144	452
団体	65	8	37	110
計	337	179	546	1,031

会員 1,031名 たくさんの方に入会していただきありがとうございます

編集後記

先の見えないコロナ禍の一年でしたが、公民館での作品展・分散型ゆうあいハイキングの開催など工夫を凝らした活動をする事で、新しい応援団の方々との出会いなど実り多き一年になりました。また、仲間と会えること・繋がることの大切さ、ありがたさを痛感した年でもありました。

来年度も新しい生活様式の中、今年繋がった人々とのパイプを少しでも太くしていけたらと思います。(N)